

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：33923

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20114

研究課題名（和文）ヴァイマル共和国期ヘルマン・ヘラー政治思想研究

研究課題名（英文）Research of Hermann Heller's Political Thought in the Period of the Weimar Republic

研究代表者

水谷 仁（Mizutani, Hitoshi）

名古屋経済大学・法学部・准教授

研究者番号：40788379

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ドイツの国法学者ヘルマン・ヘラーの「政治と生をめぐる政治思想」を提示した。彼の生きた時代であるヴァイマル共和国期は、ドイツ史上初めて国民主権が憲法によって保障され国民が政治=統治の主体となった時期であった。さらに、ヴァイマル憲法によって、同社会の一員として他者と共に生きる理念が提起されてもいた。本研究は、この時期に政治思想を展開したヘラーが、「生きている人間」と政治共同体との内的連関と、政治共同体への責任を自覚する政治的な主体像を構想していたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ヘラーは人間の多数性や多様性を尊重し、それゆえに生じる対立や闘争を率直に認めつつ、共同意識を通じた結合によって政治的統一が形成・維持・自己主張していく、というダイナミズムを政治に見出していた。さらに彼の政治思想において、特定の領域上で人々を強制し秩序づける国家という客体は、「生きている人間」という主体の無限に多数で多様な行為を統一していく「人間的・社会的な生の形式」であり、両者が相互に連関し共属して一つになっているもの、という国家観が存在していた。本研究が提示するこうした「政治と生をめぐるヘラーの政治思想」は、現代社会が内包する多元性と統合とのアポリアに対する解決策としての意義を有している。

研究成果の概要（英文）：This research presents the “Political Thought on Politics and Life” of Hermann Heller, a German state theorist. During the Weimar Republic, the period in which Heller lived, was the first time in German history that national sovereignty was guaranteed by constitution, and the German nation became the subject of politics=governance. Moreover, the idea of living together with others as a member of community was proposed. This research reveals that Heller, who developed his political thought during this period, envisioned the internal linkage between the “living human” and political community, and the image of a political subject who was aware of own responsibility to the political community.

研究分野：政治思想史

キーワード：ヘルマン・ヘラー ヴァイマル共和国 政治思想 政治と生 政治的主体像 政治共同体 責任

政治と生をめぐるヘルマン・ヘラーの政治思想
——ヴァイマル共和国における政治的主体像——

水谷仁（名古屋経済大学）

一 序論

○問題の所在と本研究の視座

→ヴァイマル共和国：国民主権（国民が政治=統治の客体から主体へ）

※共同社会の一員として他者と共に生きる理念が憲法によって提起

⇒ヘルマン・ヘラー（Hermann Heller, 1891-1933）：ヴァイマル憲法への称賛・擁護

+政治と共同社会の一員として他者と共に生きる人間の姿や人間の^{レベ}生

※先行研究：民主主義論・社会主義論・法治国家論・主権論等を中心としたヘラーの政治・国家理論の特徴やその主張が主な対象

⇔ヘラー：「生きている人間（lebendige Menschen）」という主体は、その人自身が組み入れられた政治共同体という客体によって形成されると同時に、その政治共同体を形づくっていくことにも参与

二 ヘラーの思考法

○「弁証法的思考法（ein dialektisches Denkenverfahren）」（『国家学』）

cf. 「弁証法的対立（dialektische Gegensätze）」「弁証法的関係（Das dialektische Verhältnis）」

「弁証法的連関（dialektischer Zusammenhang）」「弁証法的相互編入（dialektischer Ineinander）」「弁証法的構造（der dialektische Bau der staatlichen Wirklichkeit）」

=ある項と別の項が互いに分離・対立しつつも、孤立してはおらず全体と関係づけられ、全体へと回収され埋没するのではなく、全体によって媒介され、それぞれが相互に連関し共属関係にありながら自立しているものと見做す思考法

三 ヘラーの政治観

○政治（„Der Sinn der Politik” 「社会主義と国民」）

=特定の領域上にある人間的な相互連関の共同活動の秩序

→「政治的なもの（das Politischen）」（「政治的民主制と社会的同質性」）

=領域的統一性における、社会的行為の無限の多数性と多様性としての、諸個人の多数かつ多様な行為の弁証法的調整（多数性における統一性）

⇒全体と関係づけられ相互に共属する諸個人の行為が秩序ある統一性へと編入され、政治的統一性が形成・維持・自己主張

※社会的同質性（「政治的民主制と社会的同質性」）

=常に存在する対立状況や利害闘争が、「私たち」という意識や感情、自己を実現する共同体の意志を通して結合したものとして表れる社会—心理学的状態

四 生と結びつけられたヘラーの国家観

○国家（「社会主義と国民」）

- ＝ある地理的な領域上の人間的な諸連関の秩序づけられた共同活動を、最終的には強制力をもって保障する人間団体
- 「社会的人間」が食べる、飲む、住む、着るという日常生活を送って生きるためには、組織化された強制装置の影響力の有効性を全ての社会的な生の領域へと包括的に発揮する、国家という政治的秩序が必要不可欠
- ⇒「生きている人間」は具体的な国家的現実^{レベ}に組み入れられ、その中でそれと共に生き、それを自身の中に見出すがゆえに、国家的現実を通して自分自身を構成（『国家学』）
- ＝「生きている人間」という主体と、国家という客体は、相互に関連し共属して一つになっているもの（「主体と客体との弁証法的同一性（die dialektische Identität）」）
- cf. 「国家は、人間的—社会的な生の形式、すなわち形式における生、生から成る形式に他ならない」（『国家学』）

五 生を捕らえるファシズムとのヘラーの政治思想的対決

- 同時代的な現実政治における重大問題としてのファシズム（「独裁は何をもたらすのか」）
- ＝ヨーロッパの精神史的な危機に対応する政治現象（「ヨーロッパとファシズム」）
- 第一次世界大戦後の政治的・社会的な混乱期の、寄る辺なき状況の中で生きる戦後世代の生の気分や感情に訴えかけ、支持を獲得
- ⇔より深い動因と責任からの将来の政治的な刷新
- ＝ヘラーは社会民主主義者として、労働者階級の政治的自己意識の涵養に、民主主義と結びつけられたヨーロッパの刷新を寄託
- ⇒労働者たち自身が、国家的—社会的な規範という客体に従い、かつ主体としてそれに参与することによって、生の精神面に訴えかけるファシズムの克服を展望
- ※ヘラー自身の責任への意識の投影（「社会主義と国民」）
- ＝国民と国家という共同体に対し、自身の行為を通じて責任を負う政治的主体像

六 結論

- 生きている人間の姿や人間の^{レベ}生を政治と結びつけるヘラーの政治思想
- 政治と人間の生とは、生きている人間という主体が政治=国家秩序という客体との関係において自己を形成し、政治=国家秩序の形成にも参与する、弁証法的な統一体
- ⇒政治=国家秩序という客体に服従し、かつそれに参与する責任を担う政治的主体像

*本研究は科学研究費助成事業（研究活動スタート支援 21K20114）による成果の一部です。

メモ

☆本研究の目的：ヘラーの政治思想を〈政治と生をめぐる政治思想〉として提示

☆ヘラーの政治観

＝闘争や対立の契機の存在を率直に認めつつ、「私たち」という共同意識や「共同体の意志」を通じた結合によって政治的統一体が形成・維持・自己主張していくという、弁証法的なダイナミズムを政治に看取

☆ヘラーの国家観

＝特定の領域上で人々を強制し秩序づける国家という客体は、「生きている人間」という主体の無限に多数で多様な行為を統一していく「人間的—社会的な生の形式」であり、両者が相互に関連し共属して一つになっているもの

☆ヘラーの政治的主体像

＝共同体という客体に対して、自分自身の行為を通じて責任を負う主体

○人々の^{レベル}生全体——生存・生活・人生——を支配していくナチズム

＝ヘラーの国家観の負の具現化？

⇔国家によって形づくられ、国家を形づくっていくことに参与するという責任を担うような、ヘラーの政治的主体像の実現

＝政治と生とをめぐる彼の政治思想の正の具現化

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 水谷仁
2. 発表標題 政治と生をめぐるヘルマン・ヘラーの政治思想 ヴァイマル共和国における政治的主体像
3. 学会等名 政治思想学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------